

ぎんれいゆ会

平成三十年三月

しらじらとしぶけるごとく野梅咲く

主宰 細野恵久 福祉三期

海望む梅林訪えば更地なり

増田和子 食文一期

山峡の瀬音に春の迷る

改正節夫 国際三期

空洞を晒す老梅つぼみ千

三枝邦光 美工五期

雛壇の幾多の瞳ふすま閉づ

國永靖子 音文六期

有刺鉄線で守る人いて洲浜草

猿橋二三雄 福祉八期

バツハ聴きつ梅林を行く空は青

加藤善巳 美工八期

端切りの味濃き恵方巻きを食ふ

太田 實 国際十期

備前焼活けて山茶莢黄極まる

大下絹子 国際十五期

これからは息抜く余生梅

中村建生 国際十五期

ひもすがら雛雛を巡りたる

藤本武子 国際十五期

靈や庭園に満つ中国語

山下 進 国際十五期

一夜干し毫る手酌や亀鳴けり

許斐國照 食文十五期

水鳥のあかき嘴陽をはしく

小淵政子 健福十六期

雛の前いつも膝抱く女の子

兼清久子 健福十七期

白梅に赤い蛇の目の風通す

宮本公子 健福十七期

古い梅に肩貸す塀の通学路

沖本死辺子 国際十七期

小器用な夫の白粥春の風邪

香春早苗 国際十七期

春一番赤提灯を振つとばす

仲田慎輔 国際十七期

過ぎし日をポエムに紡ぐ春の星

中村富美子 国際十七期

骨折の映像越しに黄水仙

宮本眞貴子 国際十七期

中世の街並みに買ふ春シヨール

江間れい子 園芸十七期

風やさし梅の香やさし女坂

小栗恭子 健福十八期

動員の工場で挙げし卒業式

潮江敏弘 健福十八期

残照に籠の梅の二三輪

野見山剛 健福十八期

還付金のはがきとともに梅開く

大山吉春

国際十八期

棟梁の掛け声若し風は春

今井義和

美工二十期

活けられて梅一輪の宇宙生る

尾崎育久

美工二十一期

猫の恋玻璃一枚の睨み合い

黒木早苗

食文二十一期

土匂う畦に立ちたる深呼吸

宮脇暁美

食文二十一期

第二百四十七回ぎんれい句会（三月九日開催）より